

## 北海道札幌市（8月8日）

【人口】 1,895,552人 【面積】 1121.12km<sup>2</sup>

### 調査事項

#### 「モエレ沼公園について」

#### ・事業概要

モエレ沼公園は、札幌市の市街地を公園や緑地の帯で包み込もうという、「環状グリーンベルト構想」における北東部の拠点公園として計画された。内陸部約100haの周りを取り囲むモエレ沼を含めた189haを公園区域とする、札幌市最大の総合公園である。

ゴミ処理場として用地を取得し、ゴミの埋め立て後に公園造成を行うという、土地の複合利用を行う事業として整備が始まった。ゴミの搬入は昭和54年（1979年）から平成2年（1990年）まで続き、公共工事で発注した建築残土の有効利用により、内陸部全体に約270万tのゴミが埋め立てられた。平成2（1990）年の処理場閉鎖まで搬入された廃棄物の総量は270万トンになる。また、モエレ沼は国の治水事業として、雨水の一時貯留池となっており、周辺地区を洪水から守る役目も担っている。昭和57年（1982年）からはゴミの埋め立てが終わった部分への盛土や植樹などの公園造成事業を開始し、平成17（2005）年3月に完了、同年7月1日にグランドオープンを迎えた。

#### 「モエレ沼公園とイサム・ノグチ」 ～公園全体がひとつの彫刻～

昭和63（1988）3月、初めて札幌を訪れた彫刻家イサム・ノグチは、雪の残るモエレ沼の水面と大地、その上に広がる北の空を眺めていた。この公園事業に強い関心を持った同氏の期待に応え、札幌市は公園の設計を委託した。長い間公園づくりのアイデアを温め続けてきたノグチにとってはまたとない出会いであり、「全体をひとつの彫刻とみなした公園」の設計に情熱を傾けた。マスタープランを完成させたその年の12月30日、残念ながらニューヨークで急逝したが、遺志を受継いだ公園造成事業が翌年から本格化した。

広大な台地に刻まれた彫刻家の夢と、緑豊かな環境を次世代へ残したいという願い、この2つの思いの結晶である夢のランドスケープが「モエレ沼公園」として誕生した。

#### ・主要な施設

サクラの森：園路で結ばれた7ヶ所の遊具エリアを含む緑豊かなゾーン。遊具は全てイサム・ノグチのデザインによるものであり、美しく、彫刻と呼ぶべきものである。子ども達はひとしきり遊ぶと飽きるが、森の中に違う遊具が見えて、またそれに向かって走り出す。そんな光景をイサム・ノグチは思い描いていたようである。

モエレビーチ：遊歩道に囲まれた、ごく緩やかなすり鉢状の敷地の中央部に、イサム・ノグチの平面造形による浅い池が設けられている。美しい海辺をイメージしており、サンゴで舗装されている。池の中の3ヶ所の吹き出し口から出た水は、波紋を作りながら自然に消えていく。視察の最中には、多くの子どもたちでにぎわっていた。

プレイマウンテン：高さ30mのプレイマウンテンは、公園全体に対して主要なフォルムを形成している。イサム・ノグチが1933年に構想し長年温め続けたアイデアが、この公園において初めて実現したもの。ピラミッドや古代遺跡を思わせる花崗岩の斜面を登ると、心地よい風に吹かれながら雄大な景色を楽しめる。

テトラマウンド：直径2mのステンレス柱の組み合わせによる三角錐（高さ13m）と芝生のマウンドで構成された、シンプルでダイナミックな造形。イ

サム・ノグチのデトロイトの噴水作品と同様に仕上げられたステンレスの表面は、光の変化によって様々な表情を見せる。隣接した広場は、イベントなどに利用される。

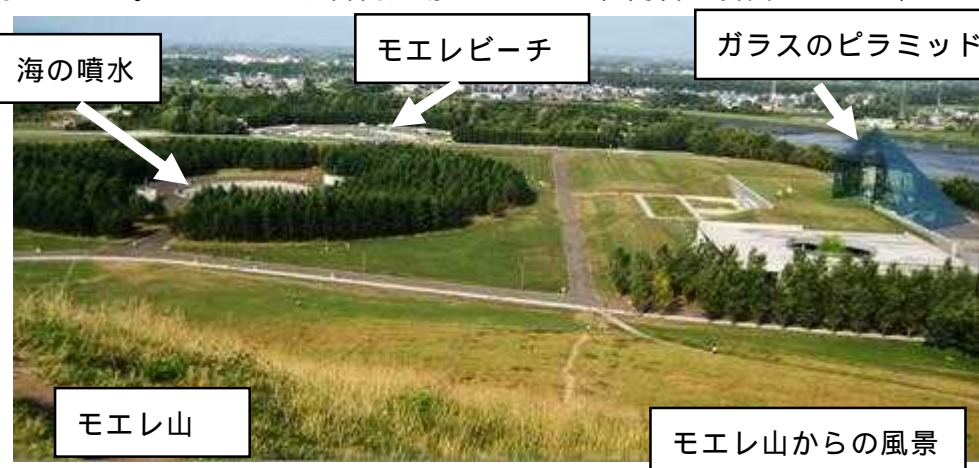
ミュージックシェル：半球形の建物で、前面が直径約15mのステージになっており、コンサートや舞踊などのパフォーマンスの舞台となる。建物の内部には出演者のための控室とトイレが組み込まれている。シンボリックな形状は、プレイマウンテンのふもとの景観に焦点を与えるものとなっている。

アクアプラザ：アクアプラザから水が噴き出し、全長約150mのカナールをゆったりと流れていく。流れの部分は浅瀬で、足をひたしたりして水に親しむことができる。2つの大きな山に囲まれたこの水と石の広場は、イサム・ノグチの庭園作品「カリフォルニア・シナリオ」の延長上にある造形であるのと同時に、札幌の街の縮図とも言えそうである。

海の噴水：公園中心部に直径48mの大きな噴水で、イサム・ノグチは、マイアミのベイフロントパークの噴水を参考として「水の彫刻」と呼ぶにふさわしい形態を兼ね備えている。最大噴上高は25mともなり、ダイナミックな水の動勢は生命の誕生、そして宇宙を表現し、公園全体に生命の息吹を与えている。

ガラスのピラミッド：モエレ沼公園のシンボルとしての形態を持つ「全体をひとつの彫刻とみなした公園」の中心施設である。アトリウムは太陽光が射し、公園内を見渡せ、自然と一体化した大きな休息空間となる。館内にはイサム・ノグチを映像や図書で紹介するギャラリー、市民の文化的な活動の場となる多目的スペースのほか、レストラン、ショップなどがあり、天候や季節を問わず多くの人々が憩い、交流する拠点となっている。

モエレ山：標高62mのモエレ山は、プレイマウンテン、ガラスのピラミッドと同様、公園全体に対して主要なフォルムを形成するとともに、札幌市北東部唯一の山として地域のランドマーク機能を果たしている。3方向5ルートから山頂へ登ることができ、頂上は公園全体だけでなく、札幌市内全体を見渡す展望台となっている。冬にはスキーやソリ遊びができ、冬季の公園利用の拠点となる。



## ・委員の感想

公園全体がノグチイサムの“作品”となっており、勝手に公園内を改善することができない。夏休み期間でもあり、利用者が相当数いたが、とりわけ、“モエレビーチ”と“海の噴水”に人が集っていた。

ガラスのピラミッドは印象が深く、雪冷房システム等、雪、風、太陽を利用した空調システムはエコの面からもすばらしい。雪の使用量、1,735t/年、CO<sub>2</sub>削減、30.8t/年。

もともと、ゴミの埋め立て地を公園にしたもので、ビーチ、噴水等の水は地下水を利用している。シートで処理しているらしいが、水の汚染が気になる。

ガラスのピラミッド館内は、雪、風、太陽を利用した空調システムで、夏は雪冷房システム（雪を貯雪庫にいれ、溶け出した冷水を利用）冬は床暖房（水を日光で温めて利用）を利用している。



視察の様子

スポーツ施設も、テニスコート、陸上競技場、野球場と数多くあった。東広島市で後利用できるとすれば、テニスコートぐらいである。

ゴミ処理場から公園へという、大きな機能転換の実施例として好奇心をそそられた。また、この公園に、洪水時の一時貯留池としての機能を持たせている点も大変評価できる上、今後の東広島市の計画において参考になると思う。雪を利用した冷房施設においては、地域の気候環境を積極的にプラス方向へと利用されており、計画発想において参考となる点である。

運営は、札幌市公園緑化協会が指定管理を受けているようで、維持管理費は年間1億8000万円、内1億5000万円を市より受託し、残りの3000万円は使用料等で賄うそうである。年間来訪者数は80万人と聞くと、規模の割には少ない様に思う。入園駐車料は無料である。

ゴミと建設残土の埋め立てを利用して189haの広大な総合公園を32年かけて計画的に造っている。また、施設には環境に配慮した物もあり、洪水時の一時貯留池にもなっている。心配なのはゴミが地下に多く埋まっている点で、防水シート、ガスの流出等が今後の課題になると思う。